

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501019		
法人名	株式会社ウエル		
事業所名	グループホーム徳ちゃん		
所在地	長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062番3号		
自己評価作成日	令和 6年 1月 23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 6年 3月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、緑豊かな環境のもと、穏やかにその人らしく生き生きと暮らしていくことを支えますを念頭に入れ、自由に笑顔で過ごせるよう日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本の最西端地の先、鹿町町との境に位置するホームである。理念にある緑豊かな環境で閑静な佇まいが職員のお気に入りであり、自慢できる点である。ホームには中庭があり、植木にはピンクの花が咲き、鳥のりさえずり聞こえる自然を楽しめる環境の中で入居者は穏やかに暮らしている。ホームに飾っている壁画の作成にあたり、入居者が熱心に取り組み、職員が傍らで見守りながら、入居者の持っている能力を引き出す支援を行っている。スリランカ人の技能実習生を受け入れ、寝食の提供を行いながら介護技術やコミュニケーション等の基本を学び、介護職員として養成している。現在、改善計画書を立てて実行し、全職員が意識を持って取り組んでいるところであり、今後は、これまで培った地域との接点を活かしながら更なる取り組みに期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染予防・インフルエンザ感染予防の為、以前のような地域の方を招いた交流は出来なかったが、広報活動などにより地域の方と連絡をして間接的繋がりを保った。 月1回のミーティングで理念を読み上げ、職員は理念を共有し、実践に努めている。	月1回のミーティング開催時に、全員で理念を読み上げている。 また、2カ月に1回の運営推進会議でも、理念を読み上げ実践につなげるよう努力している。	職員は、理念「生き生きと暮らしていくことを支えます」を大切に、入居者の日々の生活を見守り、穏やかにその人らしく生きていくことができるよう日々の支援に努めている。2カ月毎の運営推進会議でも理念を唱和して周知・浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防・インフルエンザ感染予防の為に、ホーム外にて園児さんの慰問があった。 町の文化祭に作品展示した。	インフルエンザ・コロナ感染症流行の為、地域での行事が中止となり、交流には至っていないが徐々に交流を深めていきたいと思っている。	コロナ禍で地域との交流は困難な状況であったが、近隣の保育園児がマーチングを披露する機会があり、入居者はその姿を見て喜ばれている。今後、コロナ禍以前のように近隣住民等との付き合いを再開し、計画を立てて取り組む意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防・インフルエンザ感染予防の為に、地域で支援を必要としている方々をよく知り、相談を受けたり電話対応で、いつでもサービス提供を出来るように努めている。	民生委員・地域包括支援センター・社会福祉協議会の方々と、連絡を取り要援護者の把握に努めている。 申し込みは、随時受付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎の運営推進会議では、書面により委員会の指導・助言を受けていたが、2回ほど運営推進会議に出席される。ヒヤリハット・事故報告をし、改善・予防の為に学ばせていただいている。	利用者の現状報告・今後の行事計画・ヒヤリハット・事故報告等をし、メンバーからの意見を参考にし、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、家族会会長、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、民生委員が構成メンバーとなっている。会議では現状報告、行事・研修、行事計画等について報告し、メンバーからの意見や質問を受けて、入居者のホームでの生活支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、常日頃から指導を受け、情報も共有している。地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連絡を取り、協力を受けている。	生活福祉課・長寿社会課と連絡を取り、事業所の実情を伝え、サービス向上につなげるよう努力している。	生活保護受給の入居者については、市生活福祉課より訪問があり、本人の生活状況を伝えている。市長寿社会課からは研修案内があり研修参加に繋げている。成年後見制度を利用する入居者には社会福祉協議会職員や後見人等の訪問があるなど、入居者の支援について関係機関と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない。職員は勉強会を開く意思はあったもののコロナ渦の為出来ず、内々で報告し合い情報共有するにとどめていた。帰宅願望・徘徊の方もいるが、職員同士で研究し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は、夜間のみ。研修等に参加したり、運営推進会議などでも、身体拘束をしないケアを目指し、日々取り組んでいる。	身体拘束防止委員会は運営推進会議メンバーで構成し、委員会開催後、職員に対して会議内容を報告している。身体拘束や虐待についての理解や、意識付けはこれからの課題と言える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。職員間で問題を共有し、虐待を見過ごしていないか検討の機会を設けている。	虐待防止などの研修には、参加している。又、参加者よりミーティング等で報告をしてもらい、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ渦の為、研修は行けなかったが、現在・研修に行っている。事務所にZoom設置している為に、研修を受けられるようになった。成年後見人制度を利用される入居者がおられるので、後見人と利用者・職員とのコミュニケーションをしっかり取れている。	去年、身寄りのない方に対し、社会福祉協議会の方と検討し、成年後見制度を活用し、保佐人を選定していただいた。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者・その家族には重要事項や契約書を説明し、料金改定がある際はその都度納得いくまで説明し、了解をいただいている。	契約時には書面をを用い説明を十分にし、理解・納得していただき、サインをいただいている。 また、改定時には書面にて、説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦・インフルエンザ感染の為、年に1回の家族会は書面での開催となっている。	玄関にご意見箱を設置しているが、入れられる方はおられない。 面会時やケアプラン更新時に意見や要望を聞くように努めている。 運営推進会時や市役所にも相談している。	職員は日常の入居者の発言の中で要望や意見を聞き取っている。家族等の面会時や電話連絡時に把握した意見は記録に残し、職員全体で情報共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、事務員を通して代表に意見を提案している。	職員の意見はミーティングや日々の勤務で聞き、事務員を通じて代表に伝えてもらっている。 また、東京から来られた時に、直接伝える事もある。	職員は日頃から支援に関する意見を発言し、ミーティングの際にも入居者の支援に関して意見を述べ、実践に結び付けることができている。 内容によっては事務職を通して代表に報告している。	介護現場においてもハラスメント防止のために必要な措置を講ずることが求められており、職員意見を円滑に反映させられるよう、ハラスメントに関する研修や、ホームの基本方針、マニュアル整備、相談対応窓口の設置等、今後、具体的に取り組むことを期待する。また、無資格の職員には早期に認知症介護基礎研修を受講できるよう取り組むことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見を聞き、働きやすい環境・条件の整備に努めている。	勤務状況や給与については、事務員が代表に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の資質向上の為、研修の受講を勧めているが、コロナインフルエンザ感染予防の為、思うようには行けなかったが、研修参加できるようになり事務所にZoom設置し、研修も受けられるようになった。	研修は出来るだけ、参加している。介護福祉士やケアマネジャーの資格取得の支援は受けている。オンライン研修もできるようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐保市グループホーム協議会に入会している為、研修に参加し連絡を取り、交流している。	グループホーム協議会の研修・ブロック会議には参加し、同業者と交流・情報交換をし、サービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、話しを聞いている。本人の不安・要望を尋ね、安心して入居いただけるような体制作りをしている。	入居前に面談に行き、本人より困っている事・要望等に耳を傾け、現状把握に努め、安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に訪問し、その時の生活状態を把握している。家族の方の要望を尋ね、不安なく入居いただけるように努めている。	家族がホーム申し込み時に、家族が困っている事・不安に思っている事に耳を傾け、安心して入居していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の前に訪問し、会話をし本人・家族の希望を見極め、必要なサービスを提供できるように努めている。	入居前に面談に行き、何をホームに求めているのかを見極め、ホームでサービス提供できるか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方を家族と思っている。 寝食を共にし、不安や楽しみを共有し、生活している。 人生の先輩として、教えてもらっている。	本人の出来る事を見つけ、本人の意欲に応じ、お手伝いをしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係を大切に思い、職員は家族と不安や悩みを共有し、本人を支えて行きたいと思う。 家族に電話をかけて、会話をする。	家族来所時には、本人の日々の様子や体調などを報告し、家族と話し合いながら、本人を支えていけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等、面会を歓迎しているが、コロナ・インフルエンザ感染の為に、玄関にて面会・マスク使用・体温測定をしている。	まだ玄関での面会のみとなっているが、家族・親戚・信仰友達が来所されている。	入居時に、本人の情報提供書に生活歴を記録して、職員間で共有している。現在は玄関で面会できるようにしており、入居者の知人や以前から繋がりのある信仰団体の友人等が訪れている。職員は受診の帰りに自宅周辺をドライブするなど、以前からの馴染みの人や場との関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同氏が、レクレーション等を通して、お互いにかわいあって、仲良く生活できるよう支援している。	利用者間の関係を把握し、席を配慮しながら利用者同士が関わり合いながら、生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されたり、入院されていた方の面会に行っていたが、今はコロナ・インフルエンザ感染の為に、直接行けないが連絡をとるように努めている。 葬儀に参列することもある。	他施設・病院等には、面会制限があり行くことはできないが、家族に会った時には、近況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース検討会を開き、担当職員が状況を説明し、個々の意向に沿った本人単位のケアができるよう支援している。	常に一人ひとりの行動・言動に気を配り、気づいた事をミーティングで話し合い検討している。	職員は入居者の日頃の発言や生活の中で思いを汲み取っている。家族の面会時や電話連絡時に意向や思いを聞き取り、記録に残して職員間で情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味を、家族や友人から聞き取り、把握している。	入居前に利用していたサービス機関より、情報提供していただいたり、本人・家族より話を聞いたりして、以前の暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に沿った生活だけではなく、一人ひとりの希望・心身状態に沿って、生活されるよう支援している。	その日の精神状態や体調に合わせて、一日の過ごし方や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当を決め、より良い見守りが出来るようにしている。 月1回の介護計画を作成している。 毎朝の申し送りでも、状況を把握している。	入居者一人ひとりの担当を決め、月1回のミーティングで1カ月の状況を報告し、課題を検討し「今後の介護計画」を作成するよう努めている。	職員は通院への同行や服薬管理を行っている。担当職員が担当入居者のモニタリングを実施し、介護計画の見直し時や更新時にケース検討会を通して職員間で話し合い、介護計画担当者が目標設定やサービス内容を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の状況を個別記録に記入し、毎朝・申し送り、月1回のケース検討会で情報を共有し、介護計画の見直しをしている。	個別記録に目標を書き、常に頭に入れ、日々の様子・ケアの実践を記入し、業務日誌にて情報を共有しながら、計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望やニーズに対応できるように、職員間で常に検討している。	本人や家族の状況に合わせて、新たなニーズに対応し、必要なサービスが提供出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所・行政センター・社会福祉協議会・包括支援センター・民生委員・地域の方等から指導・助言を受け、一人ひとりが安全で楽しく暮らしていけるよう支援している。	面会もまだ玄関だけだったが、徐々に増えている。 地域との触れ合い・行事参加できるよう、支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。 かかりつけ医は、本人や職員の相談にも応じて下さる。 病状悪化の時は、専門医に紹介状を出して下さい。	入居前のかかりつけ医継続の方もおられるが、家族の希望にてかかりつけ医を変更される方もおられる。	入居後は、入居者の以前からのかかりつけ医を継続し、担当職員が受診に同行して本人や家族の希望に沿った支援に努めている。心療内科や歯科医による訪問診療も受けている。受診時には介護サマリーやバイタル記録表を持参し、円滑な診療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には1名の看護職員がいて、相談している。 各ユニットに、看護職員1名ずつ希望している。 かかりつけ医の調剤薬局の薬剤師の方も、相談に乗り指導して下さい。	介護員は日々の体調管理に努め、気づいた事や情報を看護職に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院等、医療機関と情報交換し、相談をしている。 主治医・ソーシャルワーカーの方も、相談に応じて下さっている。	入院時には情報提供し、病棟の看護師・ソーシャルワーカー・家族と連携を取り、早期に退院できるよう、情報交換や相談をしている。 連絡があれば、カンファレンスにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にむけた指針を作成して、入居時に説明をしている。 医療機関や家族と話し合いながら、段階に合わせ対応している。	AGP(アドバンス・ケア・プランニング)の研修にも参加し知識を深め、今後・本人・家族と話し合いながら取り組んでいきたいと思っている。	入居時に、入居者及び家族に「重度化した場合に係る指針及び同意書」を用いて説明し、同意を得ている。 経口栄養摂取ができなくなった場合は、主治医による看取りの判断後、後方支援制度を利用して、現状に応じて主治医が医療機関に紹介状を書いて入院先との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者のバイタル・様子等を、いち早く把握するように努めている。 応急手当が出来るよう研修し、職員間で共有している。	事故発生時に対応できるよう、訓練をして実践につなげたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難訓練をしている。 避難場所を把握し、地域の消防団・近隣の方との協力体制を築いている。 消火・避難の訓練をし、訓練後反省会を開いている。 自動火災報知設備・スプリンクラー設備もしている。	日々の点検をすると共に、避難訓練を定期的に全員参加で実施している。 近隣や地域消防団にも、協力体制を依頼している。	避難訓練には、近隣住民や地域消防団にも協力を依頼している。年2回ホームは、避難訓練を実施しているが、夜間想定での避難訓練については未実施であった。	今後、夜間想定での避難訓練も組み込んで実施することが望ましい。また、BCP(業務継続計画)の早期作成とBCPの研修や訓練(シミュレーション)を行っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけには十分注意を払い、プライバシーを損ねないよう、常に心掛けている。	虐待の恐れがある行為として、昨年11月に行政からの調査を受け、現在、改善に取り組んでおり、6月に再調査を受ける予定である。入居者への言葉かけや対応に関し、現在、改善計画書を立てて実行し、全職員が意識を持って取り組んでいるところである。	職員の入居者への口調や行為について、市長寿社会課より全職員へ事実確認のための調査があり、心理的虐待と身体的虐待の事実が判明した。今後、意図的な虐待以外にも、「不適切なケア」も含めて日々の介護を振り返りながら全職員が一丸となって改善計画を実行し、虐待防止に取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや・希望を察知し、本人自身が自己決定出来るよう、働きかけている。	本人の行動・言動の中で、本人の思いを察知し、本人が自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに合わせながら、支援している。	一日の流れはあるが、その日の体調・心身状態に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所や床頭台に、鏡を設置している。 本人の意思にて着衣されている。 男性入居者には声掛け、髭剃りを促したり、季節に合っていない服装の時には、助言・支援している。	洗面所や床頭台に鏡を設置している。 本人の意思により着衣しておられ、ジーパンしか履かないと言われる方もおられる。 季節に合っていない服装の時には、助言・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切や魚の下ごしらえ等を、利用者を手伝ってもらったり、テーブル拭き・お膳拭き等は自らして下さる。 配膳すると、挨拶の前に食べられる方もおられる。	野菜切やゴマすり等、出来ることを手伝って貰っている。 お膳拭き・茶碗洗い等、自らすすんでして下さる。 お肉全般が嫌いな方がおられ、野菜・魚等に変え対応している。	両ユニットとも食材の下拵えやテーブル・お盆拭き、茶碗洗いができる入居者がおり、職員は残存機能を活用して支援している。本人の嗜好に応じ、旬の食材を取り入れた食事や、誕生日等には行事食を準備し、入居者が食事を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、食事形態を決め食べやすいように、工夫している。 トロミ剤使用の方も、おられる。	一人ひとりに合った食事量・食事形態に合わせ、調整している。 体調不良時には、お粥等で対応している。 夜間でも喉の渇きを訴えられる方に対しては、居室に持参している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・就寝前には声掛けし、口腔ケアを促している。 自分の歯や部分義歯の方もおられ、準備をして洗浄していただいている。	毎食後・就寝前には、声掛け口腔ケアを促している。 義歯を外し食べられる方がおられ、家族に報告歯科受診を、検討してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ライフチャートに記入し、排泄パターンを把握し、食前・就寝前にはトイレを促している。 時間置きに声掛け、尿失禁でのパットの数を減らせるよう支援している。	個人ライフチャートに排泄状況を記入し、パターンを把握しながら、食前・就寝時など声掛けをしている。 尿失禁でのパットの数を、減らせるよう支援している。	ライフチャート書式により各入居者の排泄状態を記録し、各入居者のパターンの把握と個別の支援を行っている。担当職員が入居者の排泄用品の数を管理し、無駄な使用がないよう努め、家族の経済的負担の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探し、食事や水分補給に配慮し、リハビリ体操への参加も促している。 腹部マッサージや薬等での調整も、支援している。	便秘の原因を探し、食事・水分摂取量に配慮しながら、軽体操等の参加を促している。 病院受診時ドクターに報告し、薬で調整している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、入浴の順番にも配慮しながら、支援している。	一人ひとりのタイミングに合わせ、入浴を促している。 入浴の順番にも配慮している。 浴槽内に入られる方もおられるが、シャワー浴の方もおられる。	入居者1人あたり、週2回の入浴ができるよう取り組んでいる。体調不良により入浴ができなかった場合は、清拭に切り替え、更衣を行う等、清潔保持に努めている。冬には、柚子湯にしたり、季節を感じられ、楽しく入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の状態に応じ、休息したり安心して良眠出来るよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に合わせて休息されたり、安心して良眠できるような声掛け等をし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的・用法・用量を理解し、一人ひとり手渡しや口に入れたり、その人に合った服薬に対応し、確実に服薬できたか見守っている。 臨時薬・薬変更時には、申し送りにて確認している。	薬の目的・用法・用量について理解し、手渡しや口に入れたりとその方に合った、服薬方法を考え、確実に服薬できるよう支援している。 服薬時には誤薬が無いよう、日付け・名前を読み上げ、職員間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方の得意分野を見つけ、発揮できるよう支援していきたい。	一人ひとりの生活歴」を元に、その方の得意分野を探し、支援につなげている。 毎朝・フロアで朝ドラを見られたり、掃除は自分の仕事だと時間になると、フロアに出て来られる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、家族との面会・外出も限られていたが、感染対策をしながら、徐々に戸外での活動も増やしていきたい。	まだまだ感染症の為、外出出来ずホーム周囲の散歩のみにとどまっている。 徐々にドライブや家族の方と外出出来るように支援したい。	入居者がホーム周辺を散歩し、日光浴など気分転換を図っており、最近では佐々川に河津桜の花見を計画し車の乗り入れ等の許可を得たが、あいにく当日は雨に見舞われ中止した経緯が窺えた。今年4月には長串山に花見に行く計画を立てるなど、今後、感染対策を講じながら外出する機会を増やす意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っておられる方もおられるが、現在外出の機会もなく、買い物頼まれる方はおられる。	本人がお金を持っておられる方もおられるが、外出の機会がない為、使えていない。 買い物頼まれる方は、おられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時には、必ず電話をし話しされる。 毎年、年賀状を送る支援をしている。	自ら電話を希望される方は、おられない。 年賀状は毎年、送るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く、いつでも利用できている。 温度・湿度計を設置し、エアコン等で調整している。 季節が分かるように、玄関・居間には壁画を飾っている。	居間は広く、いつでも利用できている。 季節が分かるように、居間・玄関には利用者共同作業した、壁画を飾っている。	フロア壁には入居者と一緒に作成した季節の壁画を掲示している。干支である龍のはり絵を飾り、玄関で出迎えている。車椅子を使用した入居者が移動しながら手すり拭きを行うなど入居者自身で掃除する方もいる。入居者がゆっくりと寛げる清潔な共用空間作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:すずらん)	実践状況(ユニット名:福寿草)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し、一緒にテレビ鑑賞されたり、会話をして楽しませている。 隣のユニット間の交流もあり、遊びに行かれたりもする。	居間にはソファがあり、一緒にテレビを見たり、気の合った利用者同士で会話されている。 また、隣のユニットにも遊びに行かれる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人・家族と相談し、自宅で使用しておられた家具・寝具を持参され、居心地よく過ごせるよう努めている。	ベット・床頭台以外は、全部持ち込みの為、本人が家で使っていた物を、持って来てもらっている。	入居者自身で居室の掃除やエアコンのフィルター掃除を行う方もいる。 居室には仏壇等の持ち込みもでき、火気、刃物以外は在宅時の使い慣れたものを持ち込まれており、ホームで落ち着いた生活を継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーになっており、車椅子・歩行器の方も自操し、移動しやすくなっている。 トイレ・自室が分かるよう、大きな名札を貼っている。	バリアフリーになっており、車椅子の方も自操し移動しやすく、トイレ・居室も引き戸になっている。 自室は分かるように、大きな名札を貼っている。		